

第 35 回 CPD 協議会 ECE プログラム委員会**拡大**幹事会

(今後 拡大を付けません また委員会を省略することも有ります)

議事録

1. 日時：平成 28 年 7 月 12 (火) 15:00-17:00
2. 場所：日本工学会会議室(森戸記念館)
3. 出席者：広崎膨太郎、武田晴夫、秋永広幸、渡邊 誠、松村正明、奥津良之(文責)
4. 配付資料

資料 35-1 ECE プログラム委員会名簿

資料 35-2 第 34 回 ECE プログラム幹事会議事録 (H28/3/16)

資料 35-3 第 5 回 ECE プログラム委員会議事録 (H28/4/21)

資料 35-4 平成 28 年度第一回 CPD 協議会全体会議議事録 (H28/5/27)

資料 35-5 平成 28 年第一回 CPD シンポジウム報告 (H28/5/27)

資料 35-6 第 8 回 CPD 運営委員会議事録 (H28/7/5)

追加配布資料

- ①平成 28 年度事業計画 抜粋 (CPD 協議会全体会議資料 28-1-3) 1 頁
- ②今後の CPD 活動に関する課題と論点の整理 (7 月 5 日広崎 CPD 協議会会長) 1 頁
- ③物質・材料基礎 ECE プログラム推進委員会平成 28 年度活動報告 (～7/12 渡邊委員)
- ④産学連携による工学教育の更なる振興に向けた一提案
(工学教育第 64 巻第 3 号抜粋 pp10-15 武田委員執筆)

5. 前回議事録(案)確認

資料 35-2 に基づき奥津幹事長から第 33 回 ECE プログラム委員会拡大幹事会議事録(案)が紹介され、議事録として承認された。

6. 委員確認と新任委員紹介

資料 35-1 に基づき委員会・幹事会メンバーの確認がなされた。また渡邊委員から、長井(前)委員から交代し物質・材料研究機構 ECE プログラムを管理運営される旨紹介があった。

7. 各報告

①資料 35-3 第 5 回 ECE プログラム委員会議事録 (H28/4/21) に基づき奥津幹事長から本年度 2 件の ECE プログラム**継続**認定申請がなされ、2 件認定されたことが報告された。
なお、Henry Dyer (1848-1918 工部大学校設立貢献者)にさかのぼり、その精神を再学習すべきであること、また是非 ECE プログラム手法を日本から世界に発信してゆけるよう全委員のベクトルを合わせたい旨、広崎会長より補足説明があった。

②資料 35-4 平成 28 年度第一回 CPD 協議会全体会議議事録(H28/5/27)に基づき奥津幹事長から概要説明がなされ、情報共有した。QR コード活用の CPD システム運用委員会(日比谷委員長)および H P & 工学会 C P D 広報強化のために CPD 広報委員会(奥津委員長)を新設し、わが国の産業技術者育成を一層強化したい旨、広崎会長より補足説明があった。

③資料 35-5 平成 28 年第一回 CPD シンポジウム報告(H28/5/27)に基づき奥津幹事長から概要経過説明がなされ、盛況であった第一回シンポジウムについて情報共有した。野中ともよ氏特別講演について、「日本の優秀な技術者としての自負は 21 世紀の成熟期にむけて国際人というよりも地球的 Globe 観点から新たな志をもってほしい。西洋の金融至上主義概念とは違う、東洋的価値観で日本から広く世界に概念を発信してほしい。日本独自の CPD を編み出してゆくことが望まれる。」との主張を会長音頭で出席者全員でこれを確認した。

④資料 35-6 第 8 回 CPD 運営委員会議事録(H28/7/5)に基づき奥津幹事長から概要説明がなされ、情報共有した。IoT, AI, ロボットなども ECE プログラムで想定できる、などの意見が委員間で活発に議論された。

⑤追加資料 -③物質・材料基礎 ECE プログラム推進委員会平成 28 年度活動報告(～7/12)について渡邊委員から詳細な報告がなされた。計画は順調であり、次回までに第 2 回イブニングセミナー(7/22)第一回実地研修会「NIMS に於ける計算・実験・解析の融合」(於 NIMS 8/26)が完了する予定である。

8. ECE プログラム委員会活動のディスカッション

(1) IoT, AI, BIG DATA, ロボットなども ECE プログラム化して人材養成を急ぐべきでないのか? との意見がでて議論が進んだ。具体策として秋永委員から IoT 周辺でなら NEDO などの協力を得られれば、プログラムを試作できる可能性がある。

→(アクション)秋永委員が検討を進める。また幹事会としても全面的に活動をバックアップする旨決議した。

→7月27日の段階で秋永委員が NEDO 担当部署に ECE プログラム認定を視野に入れた技術者育成カリキュラム開発につきご説明をされ、歓迎されたそうです。今後、担当者間でカリキュラムを練り、必要に応じて NEDO 担当部署に情報共有してくださるそうです。

(以上 e メールにて入手最新情報)

(2) エレキハード技術者の育成が急務と考えられる。とくに生産技術力低下は日本国として今や喫緊の課題になった。本年度は産業界各企業プログラムからの協力連携で ECE プログラムを作成してゆきたいことも有り、この分野で検討を進めたい。

→（アクション）但田委員、京谷委員、武田委員、石原副会長/アドバイザー、（奥津幹事）でタスクを組んで検討を開始する。 産業界で最も懸念されているこの事態を憂慮し、その払拭に向け工学会として第一歩を踏み出してみよう、との幹事会決議をした。

（会合候補日程 9月27日火曜日 13:30～15:00・・・再設定要奥津）

~~なお、後日 広崎 CPD 会長から、必要であれば、NEC から現役のシステム設計上席技術者で、電子情報通信学会関係の活動も活発に行っている方一名を検討タスクに追加参加させることも想定中、とのご連絡も戴きました。（7月13日情報）~~

（3）配布資料④産学連携による工学教育の更なる振興に向けた一提案（工学教育第64巻第3号抜粋 pp10-15 武田委員執筆）は大学教育/工学部からの視点でまとめられており、幹事会委員にとって感動的・刺激的であった。技術の国際標準化/他機関との協創にまで提案は及んでおり、これを踏まえ幹事会も活動をパワーアップしてゆきたい。

次回（第36回会合）は

9月27日（於 森戸記念館）15:00～17:00 を申し合わせて閉会とした。

以上